

経営状況 令和元年度の状況を10年前(平成22年度)と10年後(令和10年度の試算)で比較

事業収益

平成22年度 24億円
 令和元年度 18億円
 令和10年度 16億円(試算)

主な減少理由

- 人口減少や節水機器の普及などにより、水道使用量が減少して、料金収入が減っている。
- 国の基準が見直され、一般会計から繰入金を受けることができなくなった。

事業支出

平成22年度 21億円
 令和元年度 18億円
 令和10年度 17億円(試算)

主な減少理由

- 使用水量は減少していくが、水道の施設規模は変わらず、必要な維持管理経費を削減することが難しい。
- 借金である企業債が減少したことにより、企業債支払利息が減り、支出を抑えることができている。

資産

これまでに約500億円の有形固定資産を取得しています。主な資産は、畔地浄水場に代表される浄水配水施設や送配水管路(約680km)など、施設投資によるものです。

企業債

資産投資に充てた借入金の残高です。
 平成22年度 157億円
 令和元年度 88億円
 令和10年度 60億円(試算)

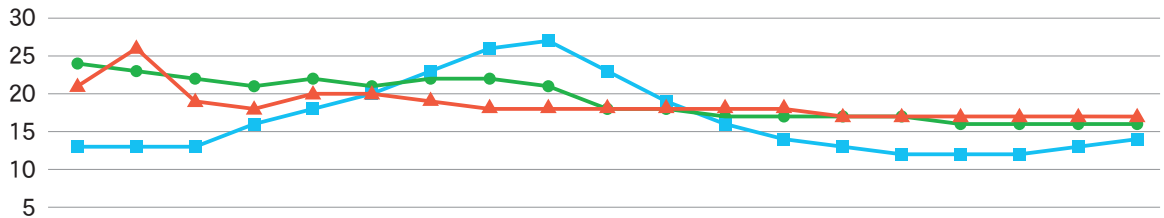
利益と内部留保資金

令和元年度の純利益は1,600万円、内部留保資金の残高は23億円です。

内部留保資金は、利益や減価償却費を積み立てた資金のことで、企業債の返済や施設整備費の財源になります。令和10年度には、約14億円まで減少すると試算しています。

経営状況の推移

(単位：億円)



	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10
● 事業収益	24	23	22	21	22	21	22	22	21	18	18	17	17	17	17	16	16	16	16
▲ 事業支出	21	26	19	18	20	20	19	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17
■ 資金残高	13	13	13	16	18	20	23	26	27	23	19	16	14	13	12	12	12	13	14
	実績数値									試算数値									

畔地浄水場の稼働状況と水道施設の維持管理

畔地浄水場は、三国川ダムから放流された河川水を水源にしています。旧魚沼地域広域水道企業団が事業に着手して、平成10年から本格的な運用が始まりました。標高が高い地域では、現在も湧水などを水源にしているところもありますが、市内の93%の地域が畔地浄水場からの浄水でまかなわれ、1日平均約2万m³の浄水を

各地域の配水池に送り、みなさんの家庭に給水しています。この量は、畔地浄水場の施設能力の3割、年間を通じて最大でも4割程度の稼働率にとどまる量です。これは、現在の給水規模に対して浄水施設が過大であることを示しています。この過大な施設の運営が高額な水道料金の原因の一つです。